

しんち九条の会だより

第10号
2007/8/20

終戦から62年

戦わない国 日本

第二次世界大戦が終結してから8月15日で62年を迎えたこととなります。この62年間にもアメリカをはじめたくさんの国々が戦いや紛争を起し、たくさんの人々が犠牲になってきました。

このような戦いは何時になったら終わるのでしょうか？戦争は醜く、悲惨で、美しい自然も家族の愛情も、すべてを壊してしまうものです。

どんな理由付けも戦争を肯定することにはなりません。そして悲惨なあの世界大戦を体験した人たちも、年々高齢化してきており、貴重な体験を語り継ごうとしている人もたくさんいます。私たちはそのような戦争体験者の話をしっかりと聞きとめて、後世に伝えなければならぬと思います。

シベリアに抑留されたこともある86歳のある男性は、次のようなことを話していました。「戦争を知らない人間に、あの言語に絶する悲惨や苦しみは絶対に分からない。私はあのような戦争を子どもや孫に味わわせてはならないと思っており、その思いは生きている限り変わることはない。まして徴兵制度を容認するような憲法九条を改正することなどもってのほかである。

また日本は、原爆被爆国として世界平和の先頭に立ち、核廃絶を訴えていかなければならないと思う。」



戦後62年、日本は一度も戦いをしませんでした。

それは日本国憲法第9条があったからだと思います。最近になってイラクに自衛隊が派遣されましたが、それでも人を殺したり、殺されたりすることはありませんでした。

私たちは憲法9条を守り、このすばらしい内容を、世界に広めていかなければなりません。

日本国憲法第9条

日本国民は正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては永久にこれを放棄する。

前項の目的を達するため、陸海空軍その他の戦力はこれを保持しない。国の交戦権はこれを認めない。

夏の甲子園

連日の猛暑の中、さわやかに、そしてきびきびと行動する高校球児ほど清々しいものはない。

福島県代表の聖光学院もベスト8はならなかったが、素晴らしい活躍だったと思う。テレビを見ていても、つつい応援に力が入ってしまう。県の代表として立派に戦ったことに拍手を送りたい。

それと、今年の新地高校の野球部も本当に素晴らしい活躍だったと思う。創部3年目での3回戦進出はまさに目を見張るものがあった。今後の益々の活躍を期待し、私達も地元高校をしっかりと応援したいと思っている。

ユートピア

しんち九条の会代表 目黒 美津英

◇・・・立秋が過ぎても暑い日が続いている。

8月15日も暑い一日となった。

62年前の8月15日も朝から暑かった。私はよその家で終戦詔勅のラジオ放送を聞いた。内容はよく聞き取れなかったが、とにかく戦争が終わったことを知った。

◇・・・前年あたりから、国内は空襲にさらされ新地でも今神の塩業会社が襲われ、朝鮮人の従業員たちが死傷した。仙台市の空襲は夜だったので、爆弾の炸裂する音、焼夷弾による火災で夜空が真っ赤になり、飛行機の飛び交う音、サーチライトの光の交錯など、戦争を身近に感じた。

◇・・・アメリカのB29爆撃機の編隊が悠々と新地の上空を南西に向かって飛んでいった。郡山市が空襲でやられた日だった。

福田小学校周辺に兵隊が駐屯して、海岸にたこつぼを掘り、五社壇に砲台をつくる作業をしていた。それから松の根から油をとる松根油の製造なども行われていた。これは国の燃料対策の一つだった。

◇・・・「一億玉砕」という声が子どもたちの耳にも入り、明日のいのちが分からない状態になっていた。

そうした状況の中での8月15日だった。

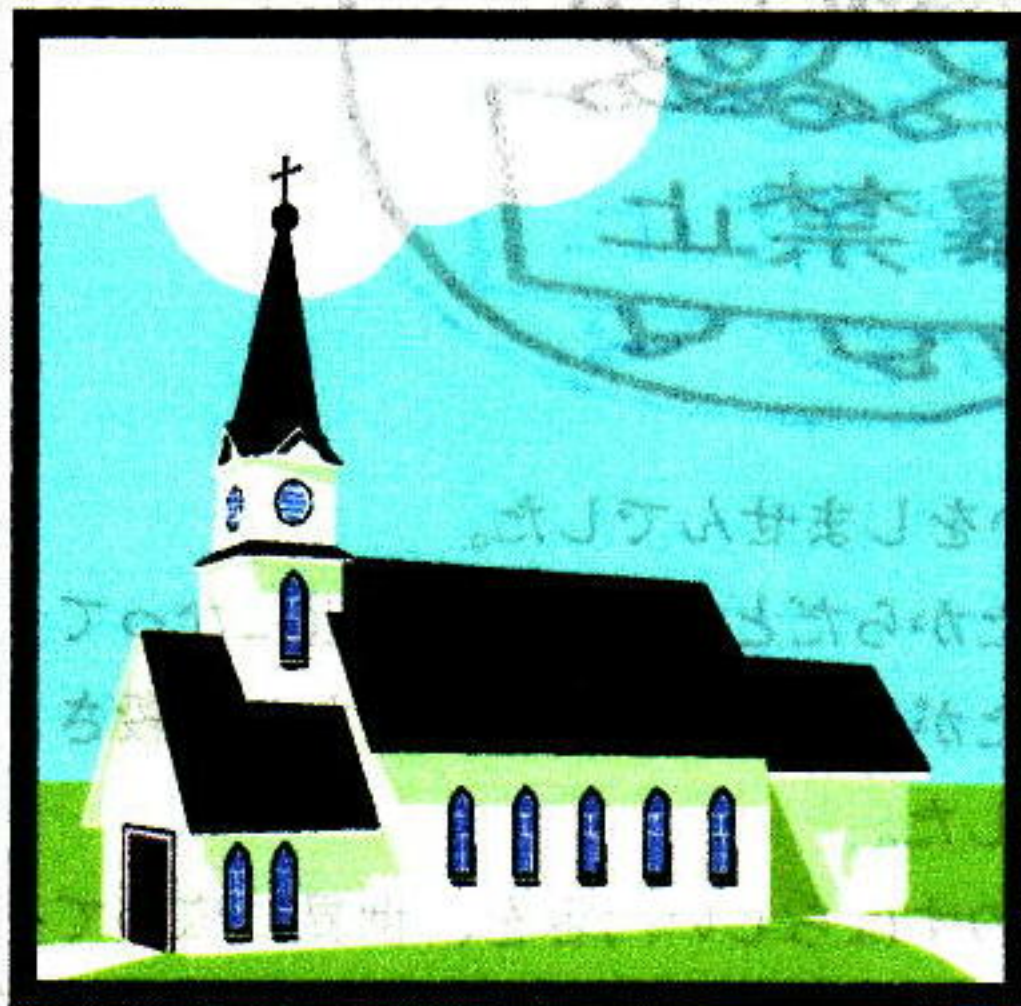
夜になると、いつもと違う静かさが訪れた。私はなんとなく家の前の古館に登ってみた。

するとどこの家からも電燈の明かりがもれていた。

昨夜までは、灯火管制で電燈に黒い布をかけ、外に明かりがもれないようにしていた。当時の電燈はせいぜい20ワットか40ワットの明るさだったが、外にもれている明かりは、なんともいえないほのぼのとした明るさだった。

「ああ 戦争が終わった」としみじみ思った。そして、これからは、平和の日が続いていくんだという希望が湧きあがってきた。

8月15日を迎えるたびに、私は、62年前に家々にともった電燈の光を思い浮かべる。



新地の文化財

三貫地貝塚

相馬市との境に近い駒ヶ嶺の高田地区に広がる貝塚です。

この遺跡は、明治27年(1894)に発見されましたが、大正13年に調査をした時、およそ3人分の人骨を発見し、三貫地貝塚は人骨の出る貝塚として知られるようになりました。

その後昭和27年(1952)の日本考古学会による発掘調査では、アサリやハマグリ、シジミなどの貝がたくさんつみ上がった貝層や縄文土器などのほか、人の手で埋められた50人以上の人骨や犬の骨が発見されました。

さらに、その2年後の東京大学人類学教室による人骨を調べるための発掘調査では、新たに50人以上の人骨や縄文土器などたくさんのもが発見されました。

また、出土した人骨の研究から、三貫地貝塚貝塚の人骨の平均寿命は、男性29、2歳、女性32、1歳であったこと、人々が魚だけでなくドングリや陸上の動物などもバランスよく食べていた可能性が高いことなども分かってきました。

「新地町の文化財」

(新地町教育委員会発行) より